

令和6年度 学校評価 氷上中学校パワーアッププラン

1 目標・方針

中期的な学校運営の目標・方針	「地域に誇りを持ち、生涯にわたって学び続ける生徒の育成」 ～地域とともに育む 人とつながり 学びに向かおうとする力～
本年度の重点目標	① 生徒の確かな学力の育成に向けた、主体的な学びを引き出す授業づくり ② 生徒が安全で安心できる居場所づくり ③ 教職員が協力・協働のもと、働きやすくやりがいを感じる環境づくり

2 自己評価 (達成状況 A:優れている B:おおむね良好 C:やや改善 D:要改善)

領域	観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況と改善の方策
	家庭連携・地域連携	【家庭連携】 オープンスクールの実施などにより、保護者等が来校される機会を増やすとともに、相談体制や情報発信の充実を図り開かれた学校づくりを推進する。	A	オープンスクールを11月12・13日の平日に実施し、両日ともに普通の授業の様子を公開した。また、PTA 主催により1年生情報モラル講演会や歌手の浜田ケンジさんを招聘した人権講演会を開催していただいた。保護者アンケートで、80%以上が開かれた学校づくりができていると評価している。 今後も、オープンスクールやHP等での情報発信を工夫するとともに、教育相談活動を充実させ、信頼される学校づくりを図っていく。
		【地域連携】 積極的にボランティア活動に参加することなどにより、地域とのつながりを深化させ、ふるさと氷上の魅力を感じるとともに、自尊感情や自己有用感を高める。	A	1年生は総合学習で氷上町について探究し、2年生はトライやる・ウィークで地域の方々にお世話になりながら活動した。ボランティア委員会の活動として、氷上町に住んでおられるひとり暮らしのお年寄りの方に、暑中見舞いハガキや年賀状を書く活動に多くの生徒が参加した。吹奏楽部も地域で積極的に演奏をしている。ユニセフ募金や赤い羽根募金の活動も行った。 また、11月に行われたPTAリサイクル活動にも積極的に参加し、地域で協力して作業を行い、地域とのつながりを深めることができた。 今後も、自尊感情や自己有用感の向上をめざし、これらの活動を継続していく。
学校運営	安心・安全な学校づくり	【不登校・いじめの未然防止】 毎朝の健康観察、毎学期の教育相談活動、自他ともに大切に人権教育の推進、個別支援等により、不登校傾向の生徒を減少させるとともに、いじめを許さない意識と実践力を育成する。	B	不登校対策委員会を毎週開催し、不登校担当・児童生徒支援担当・SSW を中心に、生徒の情報交換や支援の在り方の検討を組織的に行うことができた。未然防止策の1つとして、心のチェックシートの取組を月1回実施することができた。また、サポートルームを2教室開設し、不登校担当と不登校児童生徒支援員を中心に、個別の対応を行った。 今後の課題として、心のチェックシートを使ったより効果的な未然防止の取組を行うことや不登校生徒にとってサポートルームがあるように、全校生徒の居場所づくりに全教職員で取り組む必要がある。
		【生徒の力による学校づくり】 生徒の主体的・自治的な学級や生徒会づくりを進め、すべての生徒が活躍できる場を実現することにより自尊感情や自己有用感を向上させ、将来に夢や希望をもてる生徒の育成を目指す。	A	教師が連携し、組織的に取り組むことができた。生徒会四役、専門委員長を中心にいろいろな企画をし、生徒自身が自分たちの力で活躍する場面をつくることができた。また、学校行事を通して学級の仲間と協力し、主体的に活動する場面が多くあり、行事を通して生徒が成長していった。アンケートでは、行事に関して生徒・保護者ともに肯定的な回答をしていることも評価できる。 ただ、日常生活の中で自治的な活動を推進する時間的余裕がなく、教師が提示した形式に従うような場面もあるため、今後、自治的な活動を推進するための具体策を考える必要がある。
		【安全管理】 交通事故の未然防止をはじめ、防災(減災)意識の高揚を図るとともに、安全な学校環境の整備に努める。	B	毎月行う学校施設の安全点検、PTAと連携した登・下校時の交通指導、当番制により行っているセーフティーたんば号を活用したパトロール、場面想定を工夫した防災避難訓練の実施など、生徒が安心して生活できる学校環境の整備や、防災意識の高揚に努めている。保護者アンケートでは、「交通指導などの安全対策」の肯定的評価が83%で昨年度から5%上昇したが、交通マナーの乱れに関する電話連絡が数件あった。 交通事故の未然防止を図るために指導方法をさらに工夫し、生徒の意識向上に努めていく。
教育課程	学習指導	【授業の工夫・改善】 ICTの積極的な活用や個別最適な指導を展開するとともに、学び合い等の活用により参加しやすい環境をつくる。また、授業公開ウィークの実施等により、生徒が主体的・協働的に学べるよう、授業の工夫改善に努める。	B	教職員アンケートの「校内授業研修を計画的に実施している」、「学習状況の実態把握・分析を進めている」という項目の肯定的な評価は高くなっている。また、今年度から新たに導入されたAIドリルや、電子黒板を積極的に使用する教員も多く、授業改善に努めている。しかし、「意欲的に授業を受けている」、「授業はわかりやすく、よく理解できる」という項目について、生徒・保護者ともに75%程度であり高い水準であるとは言えない。 今後も生徒の実態に合わせた授業研修を行い、生徒が主体的・協働的に取り組む授業づくりに取り組んでいく。

		<p>【学びに向かう力の育成】</p> <p>ICTの有効活用や対話を重視した学び合い、また見通しを持たせた授業展開等により、意欲的に学習に取り組む生徒の育成を図る。また、家庭との連携、個別学習の支援等により、自学できる生徒の育成を図り、家庭学習の充実を目指す。</p>	C	<p>生徒アンケートでは、「意欲的に授業を受けている」の設問に関して、肯定的な回答が約75%となっている。対して保護者アンケートでは、「自ら学ぼうとする生徒を育てているか」という設問で、肯定的な回答が67%となっており、生徒との感じ方に差がある。その原因の一つとして考えられるのは、「家庭でどれくらい学習していますか?」という設問に関して、20%以上の生徒が、「ほとんどしない」と答えたことにあると考えられる。また、自由記述においても「平均点が低く、学力の底上げが必要である」、「一人一人の生徒の実態に合わせて、個別に支援をするなど環境を整えてほしい」とあった。</p> <p>今後、家庭学習の取組において生徒の困り感を把握し、家庭と連携して生徒への働きかけを細やかにしたり、家庭学習を促したりすることが必要である。また、実生活に基づいた内容を授業に取り入れるなどにより、興味や関心が高まり、意欲的に学びに向かう生徒の育成を図る。</p>
課題教育	特別支援教育	1人ひとりの教育的ニーズに応じた多様な学びの場と適切な指導及び支援の充実を図る。また、関係機関との連携により切れ目のない支援体制の充実を図る。	B	<p>教職員アンケートでは、支援の必要な生徒たちへの共通理解と支援の推進について肯定的な評価が92.3%、インクルーシブ教育の推進について肯定的な評価が88.5%と、昨年度に引き続き高水準であった。一方、「学校が楽しい・授業がわかりやすい」といった項目における生徒や保護者の評価は、肯定的なものが8割程度にとどまっていることや、特別支援学級在籍生徒のなかで不登校傾向の生徒が一定数いることなどの課題もある。</p> <p>今後、個別の指導計画やサポートファイルなどによる指導体制をさらに進めていく必要がある。小中連携と推進体制の構築について肯定的な評価は88.4%であり、小中交流会や相互の授業参観などを生かしながら、引き続き連携を進めていく。</p>
	人権教育	命を大切にする心や思いやりの心など「心の教育」の充実を図るとともに、あらゆる活動を通して多様な価値観を認め、自他ともに大切にする人権教育を推進する	B	<p>授業、特別活動、ともなわ(校区事業)など、日常の学校生活の中で多様な価値観を認め、自他ともに大切にする人権教育の推進に努めた。生徒アンケートでは、「学校へ行くのは楽しい」と考えている生徒が83%で昨年度より4%上昇した。</p> <p>保護者アンケートの肯定的評価を昨年度と比較すると「命を大切にする心、思いやりや感謝の心などを育む教育」が82%で3%上昇、「人権感覚を磨き、いじめや差別のない集団作り」が78%で3%上昇となった。</p> <p>今後も人権教育の視点をあらゆる活動の基盤とし、全ての学校関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級づくりを目指していく。</p>
	情報教育	PTAと連携した情報モラル講演会の実施や生徒会によるスマホルール作りなどにより、スマホやゲームに依存する生徒や個人情報の管理が未熟な生徒を減らし、SNSによるいじめの未然防止に努める。	B	<p>情報モラルに関する講演会(1年生親子活動)を実施したり、学級活動の中でSNSトラブルについての学習をしたりと指導を続けてきた。その結果、「こんな投稿をしている人がいる」などと、氷上中学校の生徒が発信した内容に対して疑問を持ち、相談をする生徒が一定数いたことは評価できる。しかし、トラブルも一定数起きており、個人情報の大切さの指導など、定期的に行っていく必要がある。</p> <p>家庭でのスマホ使用時間は年々増加しており、1日に3時間以上使用する生徒が35%と高い数値となっている。使用ルールの作成を呼びかけるなど、家庭と協力して生徒と関わっていくことが大切である。</p>

3 学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> 本校ならではの取組を踏まえた記述が少ないように感じる。目指す生徒像、つきたい力とともに、それに向けての取組についても書くべきではないか。この点が少し弱いように感じる。 なるべく具体例(具体のエピソード)を入れて書く方が良い。数値の扱い、書き振りが項目によって異なるので統一すべきである。 学校運営協議会と関連づけた記述が全くなかった。少し関連づけることが必要ではないか。 1年総合での氷上町の探究は、身近な地域は知っているようで知らないもので、良い取組だった。 今年度新たに実施された「心のチェックシート」の取組は、効果的で良かったと思う。サポートルームの設置も効果的だったのではないかな。 福祉教育のハガキ、年賀状の取組が良かった。民生児童委員の立場からもうれしい。多様な人との関りにより社会性を育む。様々な人々との関りを増やしてほしい。期待している。 感情のコントロールが難しい児童・生徒が増えている。違いを認める、多様性を認めることが大事である。 HP等での情報発信に加え、行政無線を活用してほしい。保護者以外にも知らせることができる。 地域連携の充実をお願いしたい。社会性の向上や福祉教育の充実においても大切である。地域ボランティアは大変ありがたい。今後も中学生を巻き込んだ地域活動を推進していきたい。

4 次年度の改善の方向性

<ol style="list-style-type: none"> 地域及び家庭連携、情報発信の工夫等によりコミュニティー・スクールを土台にした「地域とともにある学校づくり」、並びに「信頼される学校づくり」を進める。 生徒が安全で安心できる「居場所」としての学校の在り方を見直し、あらゆる活動を通して多様な価値観を認め、自他ともに大切にする人権教育を推進するとともに、主体的な学びの向上、学級づくり、さらに日常的な生徒との関りの工夫・改善を進める。 	<p>令和7年3月3日 学校名 丹波市立氷上中学校 校長名 大槻 隆 浩</p>
---	--